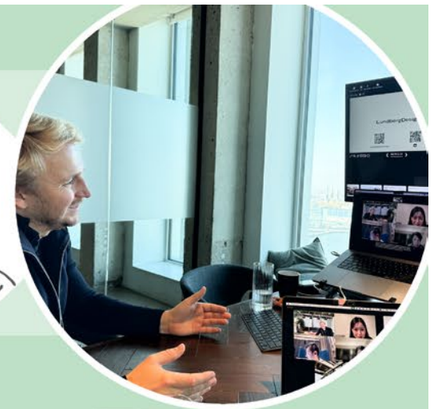
Vol. 03

「Street Moves」スウェーデンの遊び心ある都市変革

7th November 2025

Speaker
Lundberg Design
Fabian Lundburg



誰が始めた？

VINNOVA という国のイノベーション機関が資金提供をする形で始めた。
目的：通りを市民・企業・行政のすべてにとってより良い場所にするには？」という問いのもと、「通り」の丁寧な観察と設計がどのような都市変革をもたらすかを実証すること。

ゴールは？

「通り」に命を吹き戻すこと

・道の計画や道路の整備は長期的なもの。しかし道は毎日使われ、利用する児童・学生も卒業していく。
　→いかに素早く実行できるか？という**実行方法と手段**まで企画した。
　→道そのものの構造を変えるのでなく**「道の上に何かを置く」**ことを前提に。
・公共と民間の両方のステークホルダーが関わる**「包括的なデザインプロセス」**を採用

進め方の特徴

STEP1 リサーチ&インタビュー

多くの人を巻き込んだワークショップを行う 首相も参加！

- 誰が使う？
- 通りの目的は？
- 持続可能で公共的に使える通りのあり方とは？
- どういうサイズでどんな材質のものを使う？
- 誰が実施する？役割の明確化

などを議論

STEP2 デザイン

フィジカルプロトタイプをつくる ここに大きく予算を割いた！

CG やスケッチにとどまらず、実際に触れる・使えるように試作したもの＝フィジカルプロトタイプ。
このプロジェクトでは、フィジカルプロトタイプを作成し、人々を巻き込むことに重きを置いた。

STEP3 実行

実際にインストール、どの様に使われているか観察

事前、事後のリサーチを徹底、必要に応じて改善を行う。人々の行動をデータとして蓄積。
ネガティブ / ポジティブの意見の割合を数値化し、本当に必要とされているのものを見定める。

この Step２と３を繰り返していく＝ここにも予算が充てられている

事例紹介

保育園のそばの通り

毎朝保護者が自転車、徒歩、さまざまな手段で来る。自転車をどこかに停める必要があったり、早めに来た時は待つ「時間」がある。
▶自転車置き場と､待てるスペースを融合した空間に。

学校のそばの通り

コワーキングスペースが近くにあり、Eスクーターを使う若者、学生が多い。車もスピードを出して走っている。
▶ベンチ、Eスクータースタンドを作った。それにより車が避ける様に＝ゆっくり走る様になった。

このプロジェクトの要点

▶都市デザインにおけるプロトタイプイング、つまり、都市の大規模な改修を待たずに本格的な介入をすることで、そこから得られたデータや経験を次の設計に活かすことができる。

プロジェクトの座組み

VINNOVA Sveriges innovationsmyndighet
イノベーション機関
資金提供

→ Ark Des
スウェーデン建築デザインセンター

→ LundbergDesign
主にインダストリアル、トランスポーテーション、プロダクトデザイン等を手掛けるデザイン会社
プロジェクトを実質的に牽引！

→ 民間企業
カーシェア、レンタルバイク
宅配ボックス設置会社
など

INSIGHT

「No more PDF!」とにかく手を動かす。

①国のデザイン庁である VINNOVA 主導のサービスデザイン的なプロジェクト

公共道路という、関係者が非常に多い、そして変更するには時間がものすごくかかるプロジェクトを、「いかに素早く実行できるか？」という「実行方法」、「手段」までをプロジェクト起案時からセットで企画。

②「やってみようよ！」のマインドセット。

とにかく、現場主義、実行主義。常にベータバージョンで。「企画書」は要らない。
やってみて分かることもたくさんあり、実際の想定とは違う使われ方も多くされた。
モジュールの考え方を取り入れており、再現性、拡張性、可変性などが高い。実際に、他のエリア（国）での実施、あるいは拡張したりするパターンも生まれてきている。

建築家、ランドスケープデザイナーと言ったような、いわゆる「街づくり」の典型的なプレイヤーではなく「プロダクトデザイナー」が主導的な立場で関わっている＝**多様な立場の人や組織が「街づくり」に参加している**のもヨーロッパらしい事例。

【国交省担当者のコメント】

道路の役割を『歩く場』から『地域に価値を生み出す場』へと転換する視点が非常に印象的でした。一般的に道路整備は長期的なプロセスですが、このプロジェクトでは構造的な変更を伴わないことで、短期間での実証を可能にし、試行しながら学ぶ姿勢がとても参考になりました。さらに、子どもたちが利用する場所から変えていくというアプローチや、木材を用いた空間の方が人を惹きつけやすいという知見も非常に興味深かったです。